

売掛金を譲渡して 現金化したときは？



慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。

新人さん：コロナ禍になってから、数社の得意先からの入金が遅れがちですね。

先輩：たしかに入金状況が悪いところもあるなあ。どこも、客足が減って経営がきびしいからだろう。

新人さん：当社も仕入先への支払いがあるわけですから、入金時期がズレると、キツイですね。

先輩：ああ、そこで最近では、本当に資金繰りが苦しいときには、一部の売掛金を譲渡して現金化することもあるんだよ。

新人さん：えっ、売掛金って譲渡できるんですか？

○解説

企業が保有する売上債権をファクタリング会社に譲渡して、現金化しようとする際に使用する勘定科目が「ファクタリング」です。

ファクタリング会社とは、企業から手数料を受け取って売上債権を買い取り、自己の危険負担でその債権の回

収を行なう金融会社です。ファクタリングを利用することで、企業は入金までの期間を短縮でき、資金繰り状況を改善できるメリットがあります。

その一方で、金融機関からの融資よりも手数料が高くなる傾向にあるというデメリットもあります。

ファクタリング会社に支払う手数料は「売上債権売却損」の勘定科目を使用して、営業外費用に計上します。

なお、ファクタリングは金銭債権の譲渡に相当するため、消費税法上、非課税取引に該当します。

ファクタリングの契約時に、「ファクタリング」の勘定科目を用いず、「未収金・未収入金」で処理する場合もあります。

ちなみに、電子記録債権とファクタリングはどちらも売上債権を譲渡できる仕組みですが、電子記録債権は「でんさいネット」等に登録した企業同士が利用する制度であるのに対して、ファクタリングは売上債権を保有している企業とファクタリング会社の直接の譲渡取引である点が大きく異なります。



ケース1 売上債権の発生時

得意先 A 社に商品100万円（税別）を販売したが、代金は未回収である。

【借方】 売掛金	1,100,000	【貸方】 売上	1,000,000
		仮受消費税等	100,000

ケース2 ファクタリングの契約時（売上債権の譲渡時）

早期に資金が必要となり、上記の売掛金をファクタリング会社に譲渡する契約を締結した。

【借方】 ファクタリング	1,100,000	【貸方】 売掛金	1,100,000
--------------	-----------	----------	-----------

ケース3 譲渡代金の入金時

上記の契約を締結したファクタリング会社から、手数料11万円を差し引いた残額が普通預金口座に振り込まれた。

【借方】 普通預金	990,000	【貸方】 ファクタリング	1,100,000
売上債権売却損	110,000		